

路線や時期、価格などの蓄積された顧客データを分析して予測をします。



朝比奈 広純さん (1988年生まれ)

袋井商業高校 出身
愛知学院大学 経営学部卒業

株式会社フジドリームエアラインズ

静岡市清水区入船町11-1
<https://www.fujidream.co.jp/>

なるためには

- 必要資格 / 情報処理検定 ※必須ではない
- 主な進路 / 高校卒業→大学に進学し、経済学や統計学、IT関係の知識などを学ぶ→システム開発をおこなう企業または航空会社に就職→レベニューマネジメント

— 学生時代

「高校時代はサッカー部に所属し、厳しい練習を通して規律や忍耐力を学びました。商業高校の情報処理科だったので、授業はプログラミングや文書作成、IT関係などが中心。在学中に、情報処理検定、ワープロ検定、簿記検定などの資格を取得しました」

「大学時代のことを教えてください。」

「県外に出たいという思いもあり、部活の先生にすすめられた愛知学院大学に進学しました。経営学に興味があったので、学部は経営学部になりました。経済学や心理学、統計学、IT系の知識など幅広く経営に関わることを学ぶことができました。ゼミでは、ITを活用した社員教育について研究しました」

「就職活動について教えてください。」

「就活で軸にしたのは、IT関係の企業。地元静岡に戻ることを考えてはいましたが、氷河期だったので東京・大阪・名古屋を含めて活動しました。結果、システム開発などをおこなう鈴木システムテクノロジーに就職することができました」

— 仕事について

「入社後の1ヶ月間は研修期間。社会人としてのマナーや情報処理、プログラミングについての研修を受けました。研修後、私が配属されたのはシステム開発部門。設計からプログラミング、テスト、リリースまでを担当し、会計システムや物流システムなど、さまざまなシステム開発に携わりました。その後、FDA



(フジドリームエアラインズ)へ出向になり、現在は、レベニューマネジメントとして航空機の座席管理をおこなっています」

「仕事内容を簡単に教えてください。」

「飛行機の座席は、数に限りがあり、『繰り越せない在庫』のようなものです。それに対して、路線や時間帯・時期、価格、客層などの蓄積された顧客データを分析して需要の予測をします。その予測をもとに席数や価格をどのように販売すれば最大限に利益を出せるのかを計算するのが私の仕事です。早期購入割引などもその一例です。ただ、あくまで予測ではないですし、日々、予測方法もお客様の動向も変わってきます。情報収集とデータ分析にどれだけ時間をかけられるかが予測の精度を左右します」

— やりがい

「この仕事は、いかに売上を上げることができかを求められます。良くも悪くも、結果が数字として目に見える仕事。自分の予測通りの結果になり、成果が出たときはやりがいを感じます」

— なるためには

「大量のデータを扱う仕事なので、情報処理の資格があると役に立つと思います。私は商業高校だったこともあり、簿記などで数字を扱うことが多かったです。いまも数字と向き合っていることが多いです。計算をする感覚というのは高校時代を通して自然と培われた気がします。どんな経験も将来の役に立たないことなんてありません。どこかでつながり、きっと役に立つ場面があります。学生時代は、興味のあることだけにでなく、いろんな経験やチャレンジをしてください！」

「ありがとうございます。」



18歳

サッカー部に所属し、規律や忍耐力を養う。卒業後、愛知学院大学へ進学。

22歳

経済学や統計学、ITについて幅広く学ぶ。卒業後、鈴木システムテクノロジーに就職。

31歳

予測の精度を上げるため、日々、情報収集とデータ分析に取り組む。

先輩のインタビューをもっと見た方は、WEBサイトへ！

<http://amb100search.com>



日本食の中心にある『だし』の文化。
そこに感じる影の立役者としての誇り。



山下 義貴さん(1999年生まれ)
焼津水産高校 出身

株式会社新丸正
焼津市三和1384-1
<https://s-marusyuo.jp/>

なるためには

- 必要資格 / 特になし
- 主な進路 / 食品製造や品質管理について学ぶ→高校卒業
- 水産加工をおこなう企業に就職→製造工程を一通り経験
- 各部署に配属

— 学生時代

「食品科学科だったので、缶詰を製造する実習や品質検査など、食品に関する勉強が中心でした。ただ製造するだけでなく、実際に文化祭で缶詰を販売するなど、授業を通して製造から検査、販売までを経験することができました。卒業後、新丸正に就職したのは、夏に参加した研修がきっかけです。そこで、かつお節を作る作業の一つひとつが想像以上に手間がかかっていることを知り、その一貫生産に対するこだわりに衝撃を受け、ここで働きたいという思いになりました」

— 仕事について

「入社後、1年かけてすべての部署を回りました。生の鰹から荒節を作る工程、荒節を加工して削り節やだしパックを製造する工程、品質管理や生産管理など、原料から製品ができて流通するまでの流れを勉強しました。現在は、生の鰹をかつお節に加工するまでを任されています」

仕事内容を簡単に教えてください。

「まず最初に、凍結した鰹を1日かけて解凍処理をし、内臓や頭を取り除いて煮熟(ボイル)します。そのあと、手作業で1本1本骨を抜く作業と焼津式乾燥機の中で水分を飛ばす焙乾(はいかん)をおこないます。最後に急造庫で焙乾とあん蒸(※)を繰り返して仕上げていきます。水分を計測し、製品ごとの適正值になった荒節を削ったり粉砕したりしたものが、削り節やだしパックなどの製品になります」



仕事に対するこだわりとは？

「かつお節の工程は、骨抜きもそうですが圧倒的に手仕事が多いんです。焙乾も機械ではなく、薪をくべて燻しておこないます。薪を燃やした煙の匂いによって風味が変わるので、一つひとつの作業をていねいにおこなうよう心がけています。仕事を始める前は、お好み焼きにのっているものだったり、かつお節って脇役というイメージが強かったです。でも実際に携わってみると、うどんなどの料理のだしに使われていたり、味の決め手になるものだと実感しました。日本食の中心にあるのは間違いなく『だし』の文化。そこに影の立役者としての誇りを感じています」

— やりがい

「業務用製品は、カップ麺などの食品製造会社がお客様、企業によって求めているものが違うので、用途に合わせてかつお節ができたときはうれしいです。スーパーなどでよく目にする商品の原料にもなっていることを知り、携わったものが身近にあることにやりがいを感じます」

— なるためには

「特に必須の資格はありませんが、今後、食品を扱う事業者に対してHACCP(ハサップ)による衛生管理が完全義務化されます。事前に関心を持って勉強しておくことと社会に出てからも役立ちますよ。高校時代が1番楽しい時期だと思います。学ぶことも遊ぶことも大事。もちろん部活も。何事も全力で取り組んでください。私は厳しい部活を最後まで続けたおかげで自信ができましたし、心が折れそうなき時も逆境をバネにして頑張ることができています！」

ありがとうございます。



自分探

18歳 食品製造、品質管理について学ぶ。高校卒業後、新丸正に就職。

19歳 社内の仕事を一通り経験。仕事の大変さと魅力を実感。

21歳 質の高いかつお節を作るため、一つひとつの仕事をていねいにおこなう。

先輩のインタビューをもっと見た方は、WEBサイトへ！

<http://amb100search.com>



※あん蒸(あんじょう)：焙乾によって締まった節内部の水分が表面に出るまでぬかせる工程。

心がけているのは、いまの自分に満足しないで探究心をもつこと。



村松 茜さん(1989年生まれ)
 浜北西高校 出身

AKANE FITNESS

浜松市中心(スポーツクラブ・レッスン現場による)
<https://www.facebook.com/akane.muramatsu.71>

●必要資格 / さまざまな協会がフィットネスに関する認定資格を発行しています
 ●主な進路 / 高校卒業→インストラクター養成所を卒業→スポーツクラブと契約し、フィットネスダンスインストラクターとして活動

—— 学生時代

「小学4年生のときにダンスを習いはじめました。高校生活も、3年間ダンススクールに通ったことや友達と遊んだことが思い出に残っています。嫌いな習い事はすぐに辞めちゃったんですけど、ダンスだけは楽しくて続けることができました」

「いまの仕事をめざした経緯は？」

「特に目標もなかったのですが、高校卒業後の数年間はフラフラしていませんでした。『そろそろちゃんとして仕事しなきゃ』って思ったとき、両親にすすめられたのがフィットネスインストラクター。『ダンス系のエアロビクスが流行っているよ』って言葉、両親が通っているスポーツクラブに私も入会してみたんです。想像していたエアロビクスとは別物で、レッスンに通ううちにインストラクターになりたいと思うようになりました。21才のときにインストラクター養成所に通いはじめました」

—— 仕事について

「養成所では、初心者向けレッスンができるようにエアロビクスの基礎を学びます。解剖学を座学で学び、体の動かし方やレッスンの進め方、振付の作り方などを実技で学びました。養成所の試験に合格後、フリーのインストラクターとしての活動がスタートします。最初はいろんなスポーツクラブのオーディションを受ける毎日。私は運良く最初からレッスンを受けることができましたが、慣れない状態で内容や振付を考えるのは大変でしたね」



「エアロビクスやダンス、プレコリオ(※)など、さまざまなレッスンを安全に楽しんでもらうことが私の仕事の目的です。健康維持や有酸素運動を楽しみたいなど、利用者さんの目的はさまざま。それぞれのクラスにレベルが設けられているので、クラスにあった内容で適切な運動指導を心がけています。あと心がけているのは、いまの自分に満足しないで探究心をもつこと。国内外で開かれているスキルアップのためのワークショップにも参加しています。動きのきれいなやりーの仕方、利用者さんにわかりやすい言葉のチョイスなど、まだまだ勉強することがたくさんあります」

—— やりがい

「お客様の笑顔が見られること。それを大勢の人たちと共有できることがやりがいです。楽しい空間を提示できることがしあわせです。この道に進んでよかったと心から思います。高校生から高齢の方まで幅広い年代の方と接するので、仕事から人生観を学ぶことも多いです」

—— なるためには

「スポーツクラブによりますが、各協会の認定資格を取得することをおすすめします。私たちフリーランスは会社員ではないので、仕事をいただけるかどうかは自分たちの努力次第。養成所を卒業したからといって、仕事がうまくいくわけはありません…。その分やりがいや夢のある仕事だと思います。私はこの仕事に出会って人生が180度変わりました。インストラクターに興味がある生徒は、スポーツクラブで実際にエアロビクスやダンスを体験してみることがおすすめです」

ありがとうございます。



18歳
21歳
30歳

友達と遊んだり楽しい高校生活を送る。卒業後は、フリーター生活が続く。

養成所に通いはじめる。養成所卒業後、フリーのインストラクターとして活動開始。

常にいまの自分に満足せず、探究心をもって活動中！

先輩のインタビューをもっと見たい方は、WEBサイトへ！
<http://amb100search.com>



※プレコリオ：音源と振付が事前にインストラクターに与えられ、それをもとにレッスンを進めていくプログラムのこと。

相手に対する尊敬や感謝の気持ち。その気持ちを忘れないようにしています。



栗田 征邦さん(1977年生まれ)

静岡北高校 出身

豊橋創造大学 経営情報学部(現:経営学部)卒業

株式会社Tie's Auto Corporation

静岡市駿河区下川原 2-34-8

なるためには

- 必要資格 / 特になし
- 主な進路 / 高校卒業→大学に進学し、経営やマーケティングについて学ぶ→自動車ディーラーや中古車販売会社で経験を積み→独立して車両販売・修理をおこなう会社を立ち上げる

— 学生時代

「静岡北高校の進学コースに進んだこともあり、勉強漬けの日々でした。勉強に集中できる環境があり、徐々に成績も伸びていきました。高校卒業後は、豊橋創造大学へ。いつかは独立したいという思いがあったので経営情報学部を選びました。大学時代について教えてください。」

「心理学やマーケティング理論などを専門的に学んだことが自分の強みになってきていると思います。あとは、マクロ経済やミクロ経済についても学びました。経営者側から見た市場と消費者側から見た市場売りたい商品と求めている商品、双方のニーズが合致しないと商品は売れません。市場の見方やニーズのマッチング意識を養うことができました。経営者のなかには、それを無意識にできている人もいますが、私は市場調査や消費者のニーズ調査には特に力を入れています。」

— 仕事について

「新卒で自動車ディーラーに6年ほど勤めたのち、営業や中古車販売会社で働き、32歳のときに独立。車両販売や修理、整備、板金、オークション業販などの5つの事業をおこなう会社を立ち上げました。お客様の要求に対し、仕事をして対価をいただく。要するに、お客様との約束をしっかりと守るということ。その報酬が会社の売上です。その努力の繰り返しです。私の会社では自動車を扱っていますが、それはどの会社でも同じだと思います。」



— 会社経営に大切なことは?

「社会に貢献することが会社の存在意義です。そこでキーワードになるのが、相手に対する尊敬や感謝の気持ち。私は、お客様にも同業者にもその気持ちは忘れないようにしています。外注業者さんに対しても、こちらが使ってあげていると思うか、仕事をしていただいていると感謝するかどうかは大きな違いがあります。それから、請求書にはすべての項目を細かく記載するようにしています。説明もしっかりと内容もオープンに。それで築かれる信頼関係もありますからね。お客様への敬意があるからできることです。」

— やりがい

「独立したいまは、お客様と直接関わって最初から最後まで仕事をこなします。『栗田君でよかった。またよろしくね』という言葉をかけてくれる方や、毎年年賀状を送ってくれるお客様もいます。それが仕事のモチベーションにつながっています。お客様からの感謝や敬意に対し、やりがいというよりも使命感や責務のようなものを感じています。」

— メッセージ

「私は寝る前に1日の反省をしています。『こうしたほうがもっとよかったかな?』とか。みなさんも、勉強や部活で悔しい思いをしたとき、その感情に蓋をしないでください。失敗と反省を繰り返し、未来を考えることで飛躍できるはず。あとは、3年後の遠い目標ではなく、1ヶ月後など近い目標を立てること。そうすれば、3年間で36回も目標修正ができます。客観的な視点をもって勉強を繰り返すことで、卒業時には自分のストロングポイントがきつと見つけられますよ!」

ありがとうございます。



22歳 豊橋創造大学に進学し、心理学や経済学、マーケティングなどを学ぶ。

32歳 自動車ディーラーや中古車販売会社を経て独立。Tie's Auto Corporationを立ち上げる。

42歳 お客様、同業者、スタッフへの敬意と感謝の気持ちを胸に、日々の仕事に取り組む。

先輩のインタビューをもっと見た方は、WEBサイトへ!
<http://amb100search.com>



お客様にとっての当たり前の生活を、
当たり前前に提供すること。



石間 海帆さん(1995年生まれ)

静岡市立高校 出身
常葉大学 外国語学部卒業

静岡鉄道株式会社

静岡市葵区鷹匠1-1-1 静鉄鷹匠ビル
<https://www.shizutetsu.co.jp/>

なるためには

- 必要資格 / 特になし
- 主な進路 / 高校卒業→大学に進学し、さまざまな経験を通じて自主性を育む→鉄道会社に就職→鉄道部に配属され、遠隔操作担当として勤務

— 学生時代

「高校時代、バレーボール部のキャプテンを経験しました。意識したのは、部員の意見を聞きつつ、自分の意見も提示してチームをまとめること。大変でしたが、主体性が身につきましたし、成長できた部分も多いですね。小中と英会話を習っていたこともあり、高校卒業後は常葉大学外国語学部に進学しました」

大学時代のことを教えてください。

「語学はもちろん、国の歴史や背景、文化を学ぶ授業に力を入れていました。印象的なのは3年次に行ったイギリス留学。クラスにはヨーロッパやアジアの人など、いろんな国の人がいたのですが、グループワークになると自分はまわりの意見に相槌を打つ程度しかできませんでした…。まわりから、『君が何を考えているのかわからないよ!』と言われるのが転機に。正しい文法なのかわからなくても、とにかく自分がどう考えているのかを積極的に伝えるようになりました。それは、日本に戻ってから意識しています」

— 仕事について

「大学卒業後、静岡鉄道に就職しました。まちづくりに携わる幅広い分野のグループ会社があるところに惹かれました。入社後の1ヶ月半は、研修期間。ビジネスマナーを学ぶだけでなく、静鉄ストアやサービスイリアの売店など、グループの現場でも働きました。鉄道会社ということもあり、徹底して安全に対する意識も教わりました。現在は、鉄道



部の中の遠隔部署で働いています」

仕事内容を簡単に教えてください。

「無人駅で起こるお客様の困りごと対応が主な仕事です。電車の乗り越しや切符についての質問、改札が通れないなどのトラブルをインターホン越しに対応します。この業界は、事故がないこと、電車が止まらない、時刻どおりに来ることが当たり前。お客様にとっての当たり前前の生活を、当たり前前に提供することが私たちの仕事だと思っています」

心がけていることは?

「弊社は50年以上、有責無事故を継続しています。これは、自分の親よりも上の世代から続いている記録です。目標は、安全に対する確認作業を徹底し、私たちの世代もそれを守り続けること。それが、お客様が安心して利用できるサービス、快適な生活につながると思います」

— やりがい

「遠隔部署でのやりがいは、対応後の『ありがとう』という言葉です。静岡鉄道は通勤で利用する方がとても多いので、駅務員として間接的にも地域経済の発展の一端を担えていることにやりがいを感じます」

— なるためには

「静鉄グループの業務内容は多岐に渡ります。入社後に配属が決まるので、その先々で必要なスキルを身につけていけば問題ありません。大切なのは、『こうしたらもっとよくなるのでは?』と常に想像力を働かせて自分の意見や新しいアイデアをもつこと。何気ないアイデアから、会社がガラッと変わることもありえます。高校時代は、いろんなことを経験してください。やらないで後悔するより、やって失敗するほうがいい。『あのとき、やっておけば…』と後悔することが一番の失敗です。よ、ありがとうございます」



18歳

バレーボール部のキャプテンを経験。高校卒業後、常葉大学に進学。

22歳

イギリス留学を経験し、海外生活を通して自主性を育む。卒業後、静岡鉄道に就職。

25歳

安全に対する意識を徹底し、地域住民の快適な生活を支える。

先輩のインタビューをもっと見た方は、WEBサイトへ!

<http://amb100search.com>





「やる前からできないと決めつけず、まずはやってみる」ことが大切。

鈴木 真倫

さん(1993年生まれ)

二俣高校(現:天竜高校) 出身

静岡産業大学 経営学部 スポーツ経営学科卒業

NPO 法人磐田市スポーツ協会

磐田市見付4075

<https://iwata-sports.com/>

なるためには

- 必要資格 / スポーツ保育教育士 ※必須ではない
- 主な進路 / 高校卒業→大学に進学し、スポーツと保育について学ぶ→スポーツ保育教育士を取得→スポーツ協会に就職→幼児向けのスポーツ教室を担当

— 学生時代

「小学校高学年から高校までバレーボールに夢中で、将来のことは漠然としか考えていませんでした。興味があることは何だろうと考えたとき、思い浮かんだのは体を動かすこと。子どもが好きだということ。高校卒業後は、静岡産業大学経営学部スポーツ経営学科に進学しました」

「ビジネスやスポーツ科学、保育など、さまざまな角度からスポーツについて学びました。当時は2年次からコースが分かれたのですが、私はスポーツ保育コースを選択。一般的な保育の勉強に加え、運動遊びやスポーツ指導についても勉強しました。中でも印象に残っている講義はリトミックです。リズム遊びをしたり、音に合わせてチームでダンスを考えたり、表現力も養うことができました。勉強をするなかで幼児への運動指導に携わりたいという思いが芽生え、大学卒業後は、NPO法人磐田市スポーツ協会に就職しました。在学中にスポーツ保育教育士の資格を取得しました」

— 仕事について

「私の仕事は、運動の楽しさを伝える先生です。主にジュニアスポーツ教室を担当し、幼児に向けてマット運動や鉄棒、跳び箱などの指導をしています。自分の得意分野をいかし、保育園や幼稚園では体験できない遊びも取り入れながら運動を通して子どもと関わる仕事。保育士とは違った魅力があると思います」

— 大学での学びがいかされている場面はありますか？

「すべて直結していると思います。特に役立っているのは、子どもたちが大学に来て、ふれあいながら接し方を学べたこと。相手に伝わりやすい言葉のかけ方などを、実践を通して学ぶことができました。大学で学んだ保育の知識をいかし、運動が嫌いな子、苦手な子でも運動の楽しさが伝わるように工夫しています」

「心がけていることは？」

「一人ひとりの名前を呼ぶこと、子どもの目線に立って話をすること意識しています。あとは、保護者に向けて、いま何をやっているかがわかるように説明をしています。幼児の教室は、あくまで保護者ありき。保護者とのコミュニケーションも大切にしています」

— やりがい

「一番のやりがいは、子どもたちの成長、『できた』って言うときの顔を目の前で見られること。そして、そのよこごびを保護者と共有できることです。私自身も子どもたちから教わることもありますし、一緒に成長している感覚です」

— なるためには

「特別な資格は必要ないですが、私は大学で学んだ保育の勉強をいまの仕事にいかしています。ある程度、大学で専門知識を学んだり、経験を積んだりしておく、現場での自信につながると思いますよ。学生時代は、『やる前からできないと決めつけず、まずはやってみる』ことが大切。教室の子どもたちにも、いつもそう声をかけています。自分から行動を起こせば、まわりにも人もきつと応援や協力をしてくれると思います。何事もポジティブに頑張ってください！」

ありがとうございます。



卒業
年齢

18歳

↓

22歳

↓

27歳

バレーボールに熱中した高校時代。卒業後、静岡産業大学に進学。

保育の勉強に加え、スポーツ指導なども学ぶ。スポーツ保育教育士の資格を取得。

磐田市スポーツ協会でジュニアスポーツ教室を担当。仕事を通して、多くの子どもたちに運動の楽しさを伝える。

先輩のインタビューをもっと見たい方は、WEBサイトへ！

<http://amb100search.com>



感動の連鎖がみなさんの幸せにつながっていくことがやりがいです。



原田 巧さん(1990年生まれ)
浜松城北工業高校 出身

(株)ヤマハミュージックマニュファクチャリング
磐田市松之木島203
<https://jp.yamaha.com/>

なるためには

- 必要資格 / 特になし
- 主な進路 / 高校卒業→楽器製造をおこなう企業に就職→さまざまな部署、工程を経験→最終検査工程を担当

— 学生時代

「高校時代の私はギター小僧で、寝る間も惜しんでずっとギターを弾いていました。友人とバンドを結成し、いろんな場所でライブをしたことが思い出に残っています。目標を立てて仲間と練習を繰り返して、成果を人前で披露するという経験はとても貴重だったと思います。バンド活動を通して、ひとりでは達成できないことがたくさんあることを実感しましたし、コミュニケーションの大切さも感じました」

「いまの仕事に就いた経緯は？」

「大好きな音楽に携わる仕事に就きたいという思いがありました。親や先生のアドバイスを聞きながら、『仕事として将来一生つきあっていることか?』『私の能力をいかせる環境か?』を自分なりに考えてヤマハを志望しました。会社の規模や安定性も選んだ理由のひとつです」

— 仕事について

「社会人のマナー、働くとはどういうことかを研修で学びました。そのときに言われた『ころころから感謝を忘れず』という言葉はいまでも意識しています。入社研修後、保全班に配属され、機械設備の保守、管楽器製造で使用する治具製作を担当しました。その後、さまざまな工程に携わり、現在は管楽器の最終検査工程を担当しています。昨年入学した次世代のリーダーを育てるヤマハ技術研修所では『QCレポート』『スピーチコンテスト』で1位になり、首席で卒業することができました」



「ヤマハの企業理念にも掲げられています。まさに『感動を・ともに・創る』仕事だと思います。現在私が製造に携わっている楽器はサククスです。サククスの製造は、パーツを作る工程、そのパーツを磨いたり塗料を塗ったりしてピカピカにする工程、それを組み立てて不良がないかを検査する工程に大きく分かれています。私はその中で、出荷前の最終検査をおこなっています。『傷がないか?』『適正な音程か?』『吹奏感に問題がないか?』などの検査を、機械を使わずにすべて目と口、耳と手を使っておこなっています」

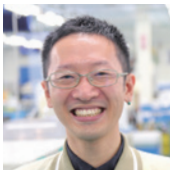
— やりがい

「店頭に並んでいる楽器を見たり、テレビでプロのアーティストがヤマハの楽器を使っている姿を見たりするとうれしいですね。製造した楽器をアーティストが受け取る、そしてその楽器を演奏し、音楽で誰かが感動を覚える。こうした感動の連鎖がみなさんの幸せにつながっていくことがやりがいです」

— なるためには

「入社時に必要な資格はありません。配属部署によりありますが、その都度必要となる資格を取得することになります。私は入社後に、危険物取扱者乙4種、機械保全技能士などを取得しました。資格よりも、人のコミュニケーションが大切だと思います。高校時代から、親やいろんな世代の人と話す機会を増やせるといいですね。社会人になって年々重なるようになってしまいます。私たちも疎遠になってしまいます。いままでも大切にしている人々への感謝を忘れず大切にしたいです!」

ありがとうございます。



18歳
29歳
30歳

ギターに明け暮れた青春時代。高校卒業後、ヤマハに就職。

さまざまな部署、工程を経験。ヤマハ技術研修所を首席で卒業する。

サクスの製造工程で検査を担当。現在は、ラインリーダーとして新人教育にも携わる。

先輩のインタビューをもっと見た方は、WEBサイトへ!

<http://amb100search.com>



自身で材料を加工してモノづくりに携われることが魅力。



山本 早紀さん(1998年生まれ)

浜松湖北高校 出身
浜松情報専門学校(※)CAD科卒業

ケーテック株式会社

湖西市白須賀 3985-2716
<http://www.k-ktec.co.jp/>

なるためには

- 必要資格 / 特になし
- 主な進路 / 高校卒業→CAD・設計を学べる専門学校に進学→生産設備の設計・製作をおこなう企業に就職→技術事業部に配属

— 学生時代

「中学のときは、吹奏楽部でトランペットを担当していました。入学した三ヶ日高校が次の年に他校と合併して浜松湖北高校になるという事態に直面し、8月開催のコンクールが三ヶ日高校吹奏楽部としての最後の大会となりました。私は商業部だったのですが、大会へ出場するための助っ人として練習へ参加することに。途中参加だったので、練習量が少なく不安でしたが、自宅にトランペットを持ち帰って練習するなどして練習量を補いました。そのおかげで、悔いのない高校生活を送ることができたと思います」

「専門時代について教えてください。」
「浜松情報専門学校に進学してCAD科を履修しました。CADはパソコンで設計をおこなう技術で、工業製品をデザインやスケッチし、モデリングで立体化するものです。この技術を身につければ、就職に有利になる点、結婚して産休をとっても職場復帰しやすくなる点などを踏まえて、専門学校で技術を習得しました。設計図面を読めるようになり、専門学校で学んだ知識は現在の仕事でも活用できています」

「仕事について」
「生産設備の設計・製作などをおこなうケーテックに就職しました。入社を決め手は、車通勤で会社が近いことのほか、同居している両親のすすめもありました。地元湖西には、自動車部品を製造している企業が多く、自身で材料を加工してモノづくりに携われることも魅力でした。現場には製造業務に関わる女性の上司もいて、今後の業務に女性ならではの視線をいかせるのではと期待を寄せています」



「組立をする際に使用する道具や、部品加工に使用するボール盤やフライス盤などの使い方は？」
「フレームの組付け方、配管のまとめ方なども教わりました。この業界は専門用語が多く、覚えるのが大変でいまだに苦労しています」

「仕事内容を簡単に教えてください。」
「設備の組付け加工をしています。既存の設備へ新たに製作したモノを組付けたり、図面変更があった部品を加工したりしています。現場での作業は、誤って加工中に指を切ってしまう、組付け時に指を挟んでしまうなど、一歩間違えれば大怪我につながる危険な作業です。安全への意識は徹底しています」

「やりがい」
「自分が組付けた設備が実際に動いたときや、調整がうまくいった瞬間にやりがいを感じます」

— なるためには

「当社で働くうえで必須となる資格はありません。私も資格はもっていませんが、モノづくりに関する資格をもっていると仕事の幅が広がります。高校生のみなさんは「行きたい学校、就きたい仕事」を意識して進路活動に取り組んでください。実際に入学、就職してみたら「思っていたのと違った…」と言って辞めてしまう人や後悔をしている人も少なくありません。そうならないためにも、まずは自分自身のこと理解し、「行きたい学校、就きたい仕事」を明確にすることが大切です!」

ありがとうございます。



18歳 設計技術を身につけるため、浜松情報専門学校に進学。

20歳 専門学校卒業後、生産設備の設計・製作などをおこなうケーテックに就職。

22歳 安全に対する意識を徹底しながら、設備の組付け加工に取り組む。

先輩のインタビューをもっと見たい方は、WEBサイトへ!

<http://amb100search.com>



商品の魅力を得意先にしっかり伝え、商品とお客様をつなぐ役目を担う。



大戸 雄貴 さん(1997年生まれ)

静岡東高校 出身

東京薬科大学 生命科学部 応用生命科学科卒業

森永製菓株式会社

東京都港区芝5-33-1(本社)

<https://www.morinaga.co.jp/>

なるためには

- 必要資格 / 特になし
- 主な進路 / 高校卒業→大学に進学し、食品科学など食品分野について学ぶ→食品メーカーに就職→営業職として勤務

— 学生時代

「高校時代に意識していたのは、部活と勉強の両立です。平日は、部活後に塾へ通う毎日。勉強にもきっちり取り組んでいたのですが、東京薬科大学には指定校推薦で入学しました。学科は、応用生命科学科。高校の文理選択で理系の生物を選択し、微生物や細胞などに興味をもったのが学科を選んだきっかけです。微生物で発電実験をした微生物学などを中心に、1年次後期からはさまざまな実験が始まりました。実験、ことに書くレポートで、毎回私が意識していたのは「考察」について。実験には、目的、方法、結果があるのですが、ただ結果を受け止めるのではなく、『なぜこの結果になるのか?』という「考察」を特に大切にしています。大学で身につけた考察力は、社会に出てからも役に立っています」

就職活動について教えてください。

「製菓企業に就職する学生が多いなか、私が選んだのは食品メーカーです。3年次に食品科学系の講義を受け、それ以来、食品分野に興味をもちました。食べることが好きだったこと、研究してきた酵素や微生物の知識がいかにせることも食品業界を志望した理由のひとつです。大学卒業後は森永製菓に就職しました」

— **仕事について**

「営業という仕事は、会社の最前線。仕事の成果が数字として現れてくるポジションです。スーパーマーケットの本部で商談をおこない、その提案次第で新商品が売場に並ぶ



かどうかが決まります。お客様や得意先の声をもとにマーケティングをして、いい商品を開発しても、その魅力を正確に伝えられなければ、店頭で並んでお客様が手に取ることはありませぬ。商品の魅力を得意先にしっかり伝え、商品とお客様をつなぐ役目を担っています」

今後のビジョンはありますか?

「総合職で入社した社員の多くは、最初は営業職につきまます。そのあとのキャリアアップは自分次第。将来は、大好きなお菓子やアイスの新商品開発、マーケティングに関わる仕事に取り組みしていきたいです」

— やりがい

「お客様が弊社の商品を手に取ってくることがやりがいにつながります。私たちは、ただ商品を扱ってくださるという営業ではなく、課題解決型提案を大切にしています。得意先がどんな課題を抱えていて、それを解決するために、営業としてどんなアプローチができるのか。自社のエゴだけでなく得意先に寄り添う姿勢で提案をします。その提案が採用され、思い描いた売場が実現できた時のやりがいは大きいです」

— メッセージ

「特に必須資格はありませんが、商品に対する愛情は必要です。私は大学での学びが社会に出るうえで重要だったと感じます。1年次に受講した『生命科学と社会I』では、大手メーカーの方から出された課題に対する回答をグループで話し合いました。リアルなマーケティングの思考を学ぶことができましたし、話し合ったアイデアを発表する機会があり、それを企業の方に評価してもらえたことは大きな経験になっています。東京薬科大学ならではの実践的な学びだったと思います」

ありがとうございます。



分
野
別

18歳

↓

22歳

↓

23歳

部活と勉強の両立を実現。高校卒業後、指定校推薦で東京薬科大学へ。

講義や研究を通して食品分野に興味をもち、大学卒業後、森永製菓に就職。

商品の魅力を伝え、店頭で並べるのが営業の役目。会社の最前線で仕事に取り組む！

先輩のインタビューをもっと見た方は、WEBサイトへ！

<http://amb100search.com>

